

パートナーシップ型冬期道路管理について

長岡国道事務所 管理第2課 維持第一係長 ○大平 英生

1、はじめに

一般国道17号（湯沢維持出張所管内）は国内でも有数の豪雪地域であるとともに、スキー場が密集し冬期の交通の集中が顕著な地域である。

当事務所では、冬期においても安全・確実な交通を確保すべく路面管理及び情報提供を行っている。除雪に関しても出勤後、降雪が続く限り絶え間なく稼働している状況である。

しかし、冬期の路面確保には限界があり、降雪が続く限り路面に雪が残ることは避けられない。また、除雪作業は常に行っているものの、チェーンを装着しない車両が登坂不能となり渋滞を引き起こしたり、休日にはスキー場入り口や高速道路IC入り口交差点で交通が集中し渋滞が発生し、高速道路のチェーン規制時にはさらに渋滞を助長させている。

このような状況の中、冬期道路管理についてユーザーニーズに即した取り組みとして、市民参画型の道路管理手法について検討を行ったものである。

2、冬期道路管理の現状と検討手順

2.1、冬期道路管理の現状

湯沢地区における冬期道路の問題点及び管理の状況は図-1に示すとおりである。これを踏まえ市民参画型で協働して取り組む管理項目を選定した。

雪寒地、観光地が抱える問題 ○ 冬期路面条件の低下（圧雪、凍結が発生） ○ 交通の集中（ｽｷｰ客集中による渋滞） ○ 雪なし地域ユーザーのマナー（チェーンなしによる登坂不能）
冬期路面管理の現状 ○ 安全交通の確保（機械除雪による路面確保） ○ 情報の提供（道路気象に関する情報の発信）

図-1 冬期道路の問題及び管理の現状

2.2、全体の枠組み

市民参画型の道路管理として、図-2のようなイメージで、パートナーシップ型冬期道路管理に取り組むこととした。

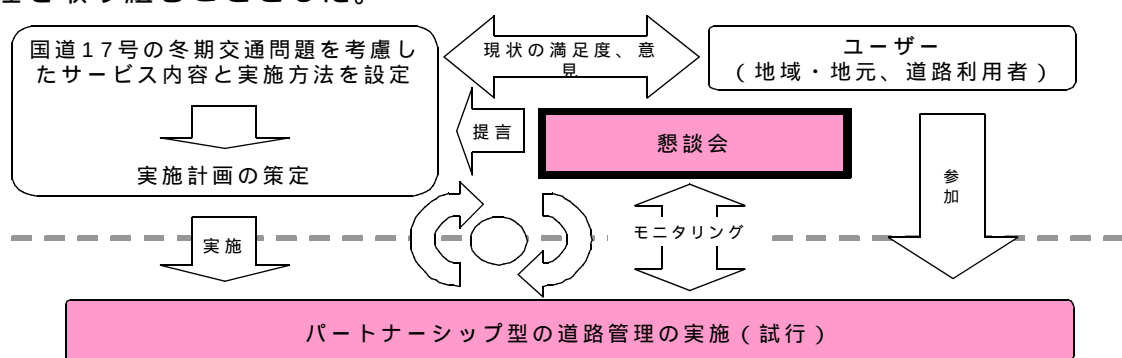


図-2 市民参画型道路管理のイメージ

3、市民参画型の道路管理手法の検討

3.1、湯沢地区冬期道路懇談会の設置

市民参画型の道路管理方法の考案・実施にあたり、道路管理者とユーザーの協働の場として「湯沢地区冬期道路懇談会（以下懇談会という）」を設置した。懇談会委員には道路管理者に対する意見を頂くとともに、自らも道路管理のパートナーとして一部試行に参加してもらった。

なお、懇談会のメンバーは、地元は勿論、県外からの観光客や運送業者など、雪道運転に不慣れなドライバーが少なくないと考えられる。特に、湯沢地区の冬期交通は関東圏からのスキー客が多くを占めるなど、冬期道路管理を考える上で無積雪地域の視点が必要であったことから、雪なし地域のユーザーにも参加してもらった。

以下に懇談会の構成を示す。

○懇談会委員構成（座長：長岡技術科学大学 丸山輝彦教授）

道路管理者（国道事務所、日本道路公団、県土木事務所、町建設課）、交通管理者（警察署）、観光産業（観光協会）、情報提供者（FM 放送局）、公共交通（地域バス、トラック代表）、地域・暮らし（地元活動団体、小学校、スキー・ホテル関係者）、雪なし地域（関東圏バス・トラック代表、全日本スキー連盟）、有識者
合計 19 名

3.2、現状の問題点と管理項目の選定

図 - 3 に示すとおり懇談会では、ハード・ソフト・ハートに分けて議論を行った。このうち冬期道路管理の問題解消にパートナーが参加にしてもらう場面としてソフト・ハートに着目し、主に情報提供について実施した。

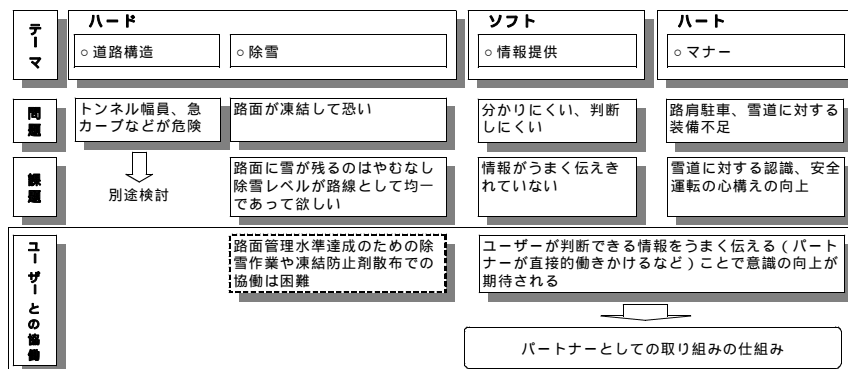


図 - 3 懇談会における議論展開と管理項目の選定

3.3、実施方針に基づく試行メニューの選定

パートナーが、PR実施（啓蒙活動）や広域的な情報発信という情報提供を行った。内容は図 - 4 に示す。

これにより、ユーザーへの確実な情報伝達と情報に基づいた支援を行うことを期待した。

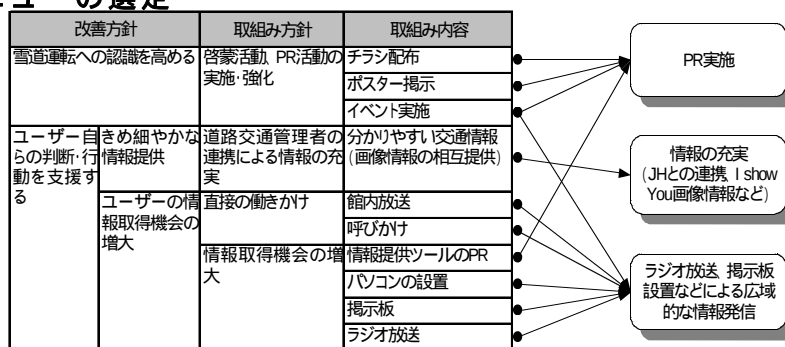


図 - 4 情報提供手法の実施メニュー

3.4、ユーザーニーズの把握

道路情報に対するユーザーのニーズ及び現状の評価を把握するため、ホームページ上でアンケートを実施した。

アンケート調査内容

- ・実施期間：H15.12.1～H16.3.12(103日間)
- ・回答者数：199名(男性91%、女性9%)
- ・新潟県内36%、県外64%(関東圏は全体の61%)
- ・年齢は20代が32%、30代が37%



図 - 5 ホームページアンケート

4、パートナーによる情報提供の実施

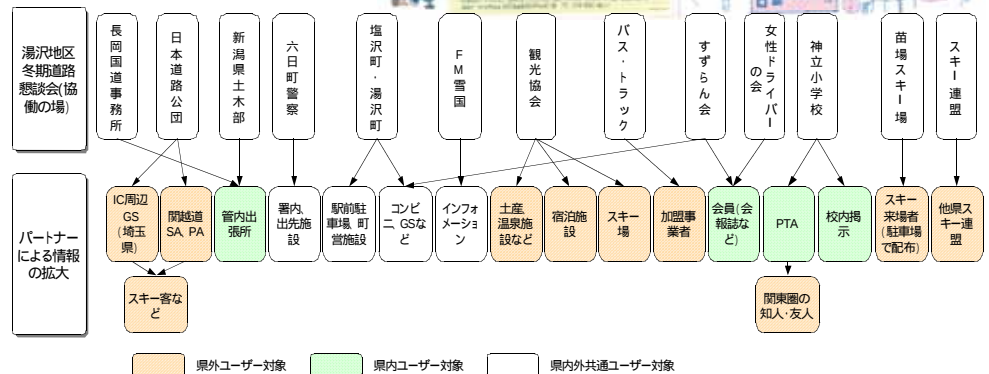
4.1、P Rの実施

現状では、「I show You」を始めとして長岡国道事務所が提供している情報があまり知られておらず、有効に活用しているユーザーは少ない。そこで、情報活動のP Rと雪道運転マナー向上のためのチラシを作成し、パートナーを通じて広く配布・設置した。



4.2、情報の充実

道路情報提供サイト「I show You」の内容の充実が図られた。内容は表-1に示すとおりである。



4.3、広域的な情報発信

情報発信が確実にユーザーに届くようにし、情報取得機会を増加させるため、道路管理者が発信する情報をパートナーが受け取った後、ユーザーに呼びかけるような情報伝達の流れを設置した。

表-1 I show You 内容の充実

画像情報	関越自動車道の画像情報を追加
アクセス方法	対応携帯電話の拡大
サービス充実	緊急情報メール配信サービス(登録制)

本調査による調査項目ではない

表-2 情報伝達手法

パソコン設置	国道17号、関越道の道路情報のみ閲覧可能に設定したパソコンをホテルロビーに設置、画像情報などを自由に取得できる環境を提供
館内放送、掲示板	道路管理者から受けた情報を館内放送や掲示板でユーザーに伝達
FM放送	道路交通管理者がFMラジオに生放送で出演し電話で情報提供する番組をスキー場で放送



図-6 パソコン設置(苗場プリンス)

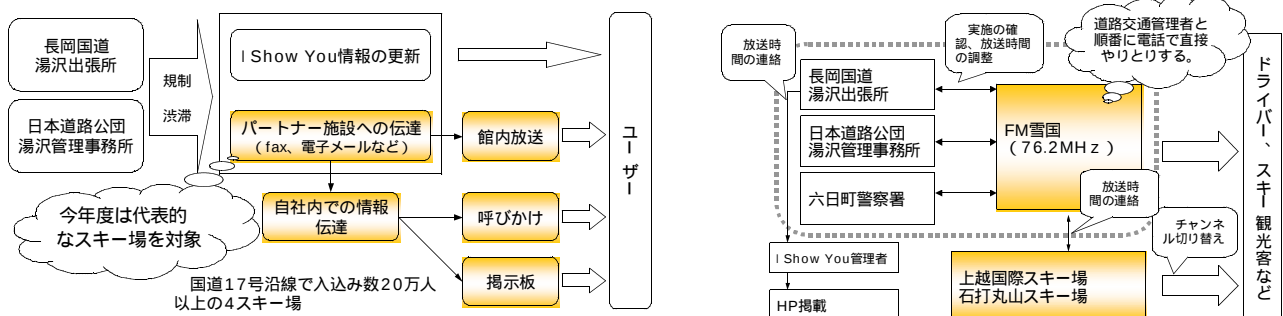


図-7 道路情報の伝達経路

5、試行の検証

5.1、道路情報に対する現状の認識

図 - 8 に示すように、情報活用機会が多い人（ホームページアンケート結果）は出発前に情報を取得する人が多いが、スキー場のヒアリング結果である出発前の情報を取得しない7割が一般ユーザーの標準であるとする、現時点で情報が十分に活用されていないことが分かる。

図 - 9 からは、情報に対して県外ユーザーは情報の重要度が高いと考える一方で評価が低く、県内ユーザーは情報の重要度は低めで満足度は高い傾向にある。

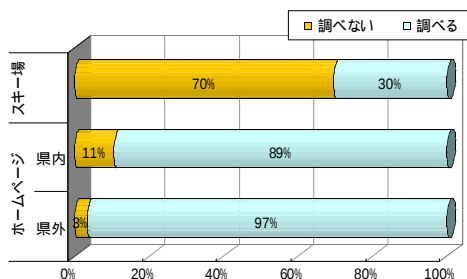


図 - 8 出発前の情報取得

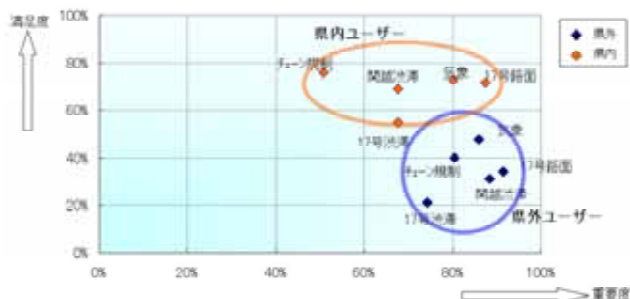


図 - 9 情報の重要度及び満足度

5.2、情報の内容とタイミング

多くのユーザーは沿道施設のコンビニなどの立ち寄り先で情報が得られる事を望んでいる。出発前の駐車場などにおいて、早い段階で情報を求めるのは県外ユーザーの傾向が強い。また、情報の内容は、渋滞の需要が共通して高く、チェーン装着の要否は県外ユーザーのみ必要としている。

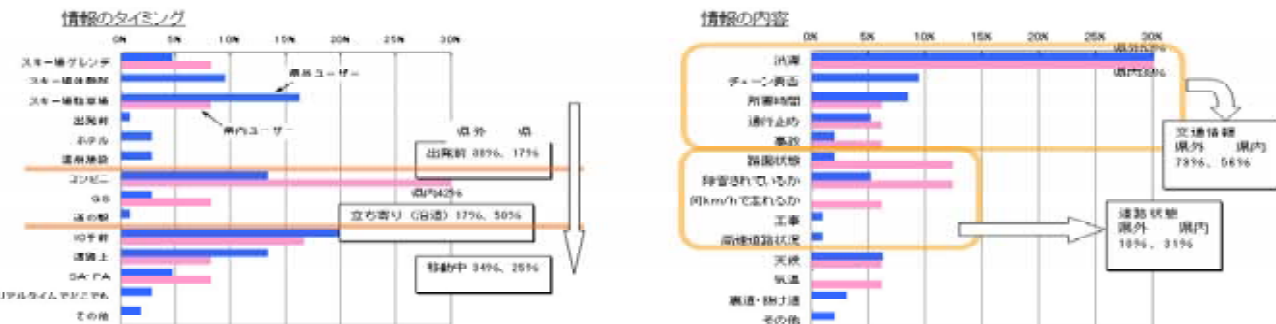


図 - 10 必要な情報の内容とタイミング（スキー場ヒアリング）

6、まとめ

試行の結果として現在のところ直接的な効果は表れていないが、パートナーとして協働し、道路情報を広く、直接的に伝達することで効果が期待されると懇談会において、評価が得られた。また、ユーザーの観点から見た必要な情報の内容と場所、タイミングは各自判断し、行動を起こすことが明らかになった。

今年度も引き続き調査を行い、今後は情報の伝達系統などに関するルールを構築し、パートナーの役割を設定することで自主的な活動として確立され、冬期道路の諸問題の解消と冬期管理の効率化、並びに湯沢地域全体のイメージアップに資する事を期待するところである。

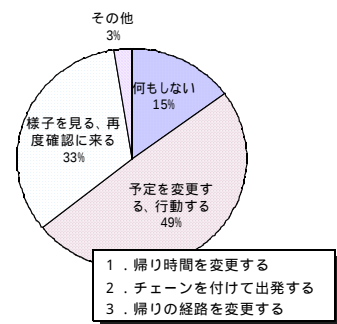


図 - 11 情報入手後の行動（I show You 利用）